



環境監査研究会

総会報告書

2024 年 8 月 25 日

2023 年度事業報告

2023 年度会計報告

2024 年度事業計画案

2024 年度予算案

環境監査研究会

EARG 活動実績2023

会員 外部参加者

1) 研究会

343回	2023/9/24	合同会社オフィス西田チーフコンサルタント 西田 純氏「EUタクソミーを巡る最新事情」	20	1
344回	2023/10/15	公益財団法人日本生産性本部 エコ・マネジメント・センター長 喜多川 和典氏 「EUのサーキュラーエコノミーにおける重要政策～リソーシング目標と持続可能な製品製作の実現～」	12	1
345回	2023/11/19	環境監査研究会 代表幹事 後藤 敏彦氏「情報公開全般・欧州のCSRD」	17	2
346回	2023/12/10	佐藤泉法律事務所 佐藤 泉氏「貿易摩擦、域外適用、サーキュラーエコノミー、 独占禁止法、日本の循環資源関係法律の再構築について」	20	1
347回	2024/1/21	自然エネルギー財団 シニアコーディネーター 高瀬 香絵氏「日本のエネルギー政策の現状と課題」	20	2
348回	2024/2/18	高崎経済大学 学長 水口 剛氏「サステナブルファイナンスの最近の動向」	22	4
349回	2024/4/21	環境監査研究会理事 松本 徹氏「日本の持続可能性」と「地球の持続可能性」 ー「いままでとこれから」、 「21世紀の課題（2014） 環境監査研究会での研究成果を参考にしてー	16	1
350回	2024/5/19	気候変動イニシアティブ（JCI）共同代表 加藤 茂夫氏「日本のGXの問題点（世界とのギャップ）」	15	2
351回	2024/6/16	東京経済大学 客員教授 寺中 誠氏「ビジネスと人権～日本国と世界のギャップ～」	15	1
352回	2024/7/21	佐藤泉法律事務所 佐藤 泉氏「東欧の環境政策と現状」	14	3

2) サロン

9回	サロン	2024/3/17	「日本におけるサイバーセキュリティ」	11	0
----	-----	-----------	--------------------	----	---

3) 研究会とサロンの開催及び参加者状況について

昨年度から引き続きオンライン形式にて研究会10回とサロン1回を実施。多彩な講師より有益な情報提供を得ることができ、集客にもつなげた。

参加人数：延べ202名（内非会員18名）

平均参加人数：18名

4) 発行物

毎月「事務局だより」の発行（定例研究会案内、他団体セミナー案内）：環境監査研究会 会員55名に向け発行

環境監査研究会 会計報告

資金収支計算書

自2023.8.1 至2024.7.31

(単位:円)

(収益の部)	
年会費・入会金	172,000
定例会会費	21,000
受取利息・雑収入	5
収益合計	193,005
(費用の部)	
定例会 *1	161,687
事務局費 *2	312,550
他団体会費 *3	10,000
費用合計	484,237
差引	-291,232
未払金の純減少(-)	25,500
期首資金残高	691,168
期末資金残高	374,436

財産目録

2024.7.31

(単位:円)

(資産の部)	
現金	7,373
普通預金	367,063
(内訳) 三井住友	237,762
三菱UFJ	129,301
現預金計	374,436
資産合計	374,436
(負債の部)	
負債合計	0
純資産(資産合計－負債合計)	374,436

*1 講師謝礼150千円、Peatix手数料・振込手数料12千円

*2 事務委託費、振込手数料等

当年度の主な費用は下記のとおりです。

・事務委託費 306千円

・Peatix手数料 4千円

・会費銀行振込手数料 1千円

*3 NSC 2023年度・2024年度会費

監査報告書

私は、環境監査研究会の2023年8月1日から2024年7月31日までの資金収支計算書および2024年7月31日現在の財産目録を監査しました。監査にあたっては、同研究会の会計帳簿を閲覧し、預金通帳、領収書その他必要と思われる資料を調査しました。監査の結果、上記の計算書類は環境監査研究会の当該期間における資金収支と期末日現在の財産の状況を正しく示しているものと認めます。

2024年8月15日

環境監査研究会

監事 水口

剛


環境監査研究会 2023 年度(2024/8/1～2025/7/31)事業計画(案)

20 世紀後半からのグローバリゼーションの光と影、特に影の部分として人権問題と格差の問題、人間活動の巨大化が引き起こした気候変動、人間の業のような収まらない紛争、これらをどう克服していくか。人類社会は限界に近づいてきているのかどうか。こうした状況の中で企業等はどう活動していくか、まさに VUCA*の状況の中で方向性を模索していると推察しています。

*Volatility(変動性), Uncertainty(不確実性), Complexity(複雑性), Ambiguity(曖昧性)

こうした中で当会は、少なくとも本年度は引き続きサステナビリティの諸課題について研究会やサロンを継続します。但し、継続するには財務的状況の問題もあり、年度後半の適切な時期に閉会のミニ集会を開いて長年の活動を収束することにします。

- ◇ 定例研究会 2ヶ月に一回以上として、原則リモートとします。
- ◇ サロン 講師をお呼びする定例研究会のない月に年数回、テーマを決めてリモートでの会員間の議論の場を設けます。可能であれば、リアル開催も検討します。
- ◇ 事務局だより 定例研究会、及び会員へのお知らせについて適宜発行します。
- ◇ メルマガ 会員及びメルマガ登録のある非会員に不定期に発行します。
- ◇ 事務局体制 昨年同様、事務局長を置かず、事務局業務の一部を委託(有料)します。

参考 2023.08.27

環境監査研究会 2023 年度(2023/8/1～2024/7/31)事業計画(案)

コロナは終息したのかどうかはわからないままに日常生活が営まれています、コロナ前とは色々な意味で背の中変わっています。環境マネジメントに関してはコロナにも拘わらず世界は猛烈に動いております。サステナビリティ情報についてはこの6月に ISSB が S1、S2 を公表、TNFD も9月には第1版を公表予定といわれています。情報開示・公開・広報の世界もこれから大きな変革があり得ますが、それ以前に企業のサステナビリティ取組が大きな変革を求められており、対応できないものは退場しかないかもしれません。気候危機も「地球温暖化」から「地球沸騰化」の時代に突入してしまいました。

我々、様々な立場の人たちが環境と企業活動についての自由な議論をする場として活動の規模は小さいながらも継続していきたいと考えます。リモート中心で引き続き質の高い研究会を開催し、情報発信・交流の場にしていきます。

- ◇ 定例研究会 2ヶ月に一回以上として、原則リモートとします。
- ◇ サロン 講師をお呼びする定例研究会のない月に年数回、テーマを決めてリモートでの会員間の議論の場を設けます。可能であれば、リアル開催も検討します。
- ◇ 事務局だより 定例研究会、及び会員へのお知らせについて適宜発行します。
- ◇ メルマガ 会員及びメルマガ登録のある非会員に不定期に発行します。
- ◇ 事務局体制 昨年同様、事務局長を置かず、事務局業務の一部を委託(有料)します。

第四号決議

(収益の部)

年会費※ 1	170,000	円
定例会資料代	10,000	円
収入合計	180,000	円

(費用の部)

定例会講師	140,000	円
シンポジウム	100,000	円
事務局費※ ²	306,000	円
諸会費	5,000	円
費用合計	651,000	円
差引(収益-費用)	-371,000	円

※ 1: 個人会員 35 名 法人会員 4 社

※ 2: 事務委託費、振込手数料等

< 理事(兼、運営委員) >

- 後藤 敏彦 代表幹事
- 坂本 茂實
- 松本 徹
- 酒井 嘉昭
- 角谷 祐公

< 運営委員 >

新美 安信
三宅 実
若山 尚之
山田 朗

.....

監事

水口 剛（高崎経済大学学長）

顧問

稲永 弘（㈱トーマツ審査評価機構代表取締役社長（2017年2月1日付退任））
河野 正男（横浜国立大学名誉教授／元中央大学教授）

相談役

倉阪 智子